令和3年 年頭のごあいさつ

大石田町長 村岡（むらおか） 藤弥（ふじや）

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃より町政運営に対しまして、温かいご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

防災・減災の取り組みを進め安心・安全なまちを目指します

昨年は、自然災害が全国で相次いだ年でした。3月の石川県能登地方を震源とした最大震度5強の地震、6月の千葉県東方沖を震源とした最大震度5弱の地震、また、7月には令和2年7月豪雨災害が発生し、熊本県をはじめ、日本各地に甚大な被害をもたらし、当町においては最上川の支流上流部の大雨により、大石田観測所での水位が観測史上最高となる18m59cmを記録しました。多くの町民の皆さまに早めの避難行動をとっていただいたことから、幸いにも人的な被害はありませんでしたが、住宅の浸水被害やスイカやそば等の農作物被害等、また、上水道の水源場が水没したことから、町内のほとんどの地域で4日間にわたり断水が発生しました。災害の復旧にあたっては、町内外の多くの企業や自治体、個人の方から温かいご支援・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

令和2年7月豪雨災害の最上川大橋

迫りくる自然災害への対応力を高めるべく、10月には東町地区自主防災会など地区住民の協力により、震度6強の地震を想定した町防災訓練が行われました。

また、災害時、迅速に避難するためには、平常時の情報収集や非常時持出品の準備が欠かせません。町は、ヤフー株式会社と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結し、町の防災放送や携帯電話の緊急速報メール等の従来の情報伝達手段に加えて「Yahoo！防災速報」からも注意喚起の情報や避難に関する情報等を配信します。

昨年12月中旬から連続して降り始めた雪は、12月時点の積雪としては、過去10年以内では一番の積雪量です。町は12月18日に豪雪対策本部を設置し、流雪溝の通水時間延長等の対応をとりました。冬の快適な暮らしのため、引き続き行政と住民の総力を結集して雪対策に取り組んでまいります。

地域おこし協力隊制度を活用したまちおこしの取り組みについて

一昨年4月に着任された、大野達也さんは元お笑い芸人という前職を生かして、動画投稿サイトYouTubeを活用した町のPR動画の制作・投稿、大野あかねさんは子育て世代のママ目線や美容師という経歴を生かした各種イベントの企画等、駅前の賑わい拠点施設「KOE no KURA」を活動拠点として、幅広く活動していただいております。引き続きお二人には特色ある取り組みで町の活性化に向けて活動していただく予定です。

また、今後さらに地域おこし協力隊制度を活用して、協力隊を増員し、「関係人口の増加」や「スポーツ振興」、「インバウンド客の獲得」などの分野において活動をお願いする予定となっております。

若者から高齢者まで健康で住みよいまちを目指します

「子育て世代包括支援センター」は、子育て世代の身近な相談窓口として役場保健福祉課内に設置し、妊娠期から出産・子育て期のさまざまな相談に対応しています。支援センターでは、保健師が母子健康コーディネーターとなり、必要に応じて医療機関や保育施設などの関係機関と連携をとりながら子育てをサポートしております。

また、子育て世代活動支援センター「にじっこひろば」は、専任の保育士が各種イベントの企画や一時預かり保育、また、今年度はコロナ禍に対応した子育て応援動画の制作・投稿を行っており、多くの反響をいただいております。

にじっこひろばの子育て応援動画は、こちらからご覧いただけます。

全国的に高齢化が進んでおりますが、町では、地域の課題を話しながら福祉ニーズの掘り起こしを行う「んだんだ講座」や介護予防や健康寿命の延長を目指す「いきいき百歳体操」など、心身ともに健康に過ごしていただけるように各種事業を展開してまいります。

「町民目線のまちづくり」を政治信条として

町は少子高齢化やコロナ禍による経済の低迷、迫りくる自然災害への対策など、様々な課題に直面しております。しかしながら、「町民目線のまちづくり」を政治信条として、「心豊かに幸せを感じるまちづくり」を町民の皆様と一緒になって進めていく所存でありますので、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本年が皆様にとりましてすばらしい年となりますようご祈念申し上げ、挨拶といたします。